

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 13日

【評価実施概要】

事業所番号	0173700287		
法人名	有限会社 グループホーム コスモス		
事業所名	有限会社 グループホーム コスモス		
所在地	伊達市長和町609番地 (電 話) 0142-25-3311		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成21年3月9日	評価確定日	平成21年3月14日

【情報提供票より】 (21年 2月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	9月	10日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	18 人	常勤	14人,	非常勤 4人, 常勤換算 17人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り	
	2 階建ての	1 ~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費15,000 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要 (2月 25日現在)

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名	
要介護 1		名	要介護 2	3	名	
要介護 3	4	名	要介護 4	3	名	
要介護 5	6	名	要支援 2		名	
年齢	平均	86 歳	最低	71 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小熊内科医院、ミネルバ病院、伊達クリニック、中村歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームコスモスは、道内有数の景勝と穏やかな気候に恵まれ、自然豊かな、しかも交通の便も良い所に位置する。敷地には広い庭や畑を配し、憩いの場にも活用されている。両ユニットの間には、広い共用フロア（パブリックホール）が設けられ、冬期や雨天にかかわらず、レクリエーションや運動を楽しめる場として活用されている。運営者は、看護師として長く認知症の高齢者のケアに携わった経験から、認知症高齢者にとっての理想の生活の場を求めてこのホームを開設するに至り、以来、独自の理念に基づく質の高い介護を求め続けている。職員相互の信頼関係も厚く、離職が少ないのも運営の質の高さを思わせ、家族の安心につながっている。

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 前回課題の地域とのつきあい、運営推進会議、市町村との連携、同業者との交流を通じた向上の改善には、それぞれに客観的な事情が困難である中、真摯に取り組み、可能な限りの前進を見ている。重度化に向けた方針共有や災害対策における夜間想定訓練、近隣の協力体制は実現している。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	②	自己評価用紙を全職員に配って2週間の期間を与えて記入を求め、リーダー及び管理者でまとめあげた。この中で職員は日ごろの活動課題を再認識するのに役立っている。自己評価を通じた具体的な改善課題への取り組みという点ではこれまでのところ模索の状態である。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 年間に2回程程度の開催で、定期的な開催はまだ定着していない。自治会長、市職員、家族を外部のメンバーとしているが、家族は一部の人に限られており、他にもそれぞれに事情があって集まる機会を設定するのに多大な苦労を強いられながら精一杯取り組んでいるのが実情である。ホームの活動内容、行事、評価、災害対策について討議している。認知症の理解をテーマにしたところ関心と呼び、今後地域とのつながりの深まりに期待が持てる。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 運営推進会議のほかにも行事の機会に家族との食事会を催すなどして意見を交換し、要望を聞きだす努力を重ねている。また管理者、職員に忌憚なく意見を言える人間関係作り心がけている。必要に応じて家族アンケートを実施して意向を確認している。大きな苦情は出ていないが、日常的な要望については連絡ノートに記載して全職員に周知を図っている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 自治会は一世帯の住民以外は加入させない決まりで、加入はできないが、夏祭りなどの行事には参加し、子どもみこしの来訪を受けるなどしている。近隣の多くが農家で、家もまばらであり、自治会の活動自体、限られたものとなっており、地域との連携の手がかりに困難な事情を抱えている。隣接する小学校とは親しいつきあいがあり、お互いの行事に引きあっている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設に際して運営者の思いを込めた理念を作り上げ、利用者の尊厳、地域・家族との交流、家庭的環境、ゆっくり、楽しく、いっしょに、穏やかに、明るく、楽しく、当たり前の生活を、などの内容を謳っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はパブリックホールの壁に掲げられているほか、小型のカードに印刷して職員が常時携帯している。新しく利用者が入居する際には家族にも説明している。日常の業務や会議の中で、自ずから理念が活かされていると考えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会は一世帯の住民以外は加入させない決まりで、加入はできないが、夏祭りなどの行事には参加している。自治会の活動自体、限られており、地域との連携の手がかりに困難な事情を抱えている。隣接する小学校とは親しいつきあいがあり、お互いの行事に招きあって交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価用紙を全職員に配って2週間の期間を与えて記入を求め、リーダー及び管理者でまとめあげた。この中で職員は日ごろの活動課題を再認識するのに役立っている。自己評価を通じた具体的な改善課題への取り組みという点ではこれまでのところ模索の状態である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	集まる機会を設定するのに多大な苦勞を強いられながら精一杯取り組んでいるのが実情である。ホームの活動内容、行事、評価、災害対策について討議している。認知症の理解をテーマにしたところ関心呼び、今後地域とのつながりの深まりに期待が持てる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の担当者とは緊密な関係が築かれており、必要があればいつでも相談できる間柄になっている。成年後見制度の利用について相談し、指導を受けた経緯もある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、鮮明な写真をふんだんに掲載したコスモス便りを発行して家族に近況を知らせている。必要に応じて手紙を沿え、来訪時に詳しく知らせるなどして報告している。職員の異動はユニット入り口に掲示してある写真で示している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との食事会を催すなどして要望を聞きだす努力を重ね、忌憚なく意見を言える人間関係作り心がけている。必要に応じて家族アンケートを実施している。大きな苦情は出ていないが、日常的な要望については連絡ノートに記載して全職員に周知を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の信頼関係が厚く、離職は最小限に抑えられている。全職員がどの利用者とも等しく親密な関係を築いているため、交代によるダメージは生じていないと考えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月職員が交代で発表担当を決めて感染症、認知症などについて学習会を行っており、夜勤を除く全職員が参加している。職員の経歴に応じて実践者研修に派遣している。その他、総じて毎月一人ぐらいを受講に派遣しているが、案内を待って派遣を決めているので、計画を立てることは困難である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	胆振・日高地方のグループホームによる広域連合が主催する研修会に参加して同業者との交流をしている。近くのグループホーム数カ所と個別のつながりで交流がある。地元大手の医療法人が関連するグループホームが催す勉強会には職員全員が参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に何回かの事前訪問をして、職員や建物の雰囲気に慣れてもらう。それでも実際の入居となると、帰宅願望の出ることもあるので、1~6ヶ月間は慎重に経過観察をしながら、家族とも相談して対応している。時には家族がリビングで共に食事をすることによって安心感を与えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯、掃除、食事などに関連する家事を職員と共に参加し、会話を楽しみながら行っている。利用者から学ぶことがたくさんあることを実感している。全介助の利用者ですら、職員に気遣いの言葉を掛けてくれることに感動を覚えている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事や入浴などの基本的な生活行動や、健康のための運動などに誘う場合でも、必ず本人の意向を確認し、タイミングや方法を考えて実行している。言葉による表現の困難な利用者でもその人独自の何らかの表現手段を持っており、それを理解して汲み取っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成者は個人情報からアセスメントを行い、家族・本人の思い、医療情報も参考にして、1週間～10日の間に観察した職員の意見も取り入れ、それらを基に原案を作成している。サービス担当者会議で修正し完成した計画書を家族の来訪時に説明し、来られない場合は郵送で確認し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに短期目標を、6ヶ月ごとに長期目標を定期的に見直し、ケア内容を評価している。急激な病状の変化や入退院後の状態変化がある時は、朝の申し送り時などに状態を確認し合い、現状に即した的確な計画書を新たに作成し家族の同意も得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々々の状況に応じて通院、買い物などの送迎を行っている。パブリックホールを利用し、リハビリ要素も入れた体操や遊びを通し心身の機能維持に日々努めている。医療連携の中でホーム職員の看護師が点滴など、医療的な処置も行い柔軟に対応している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の定期的な訪問診療、また緊急時の受診などで、管理者でもある看護師は協力医とその都度、相談できる関係を築いている。また入居前のかかりつけ医や希望する病院の受診に看護師が同行し、それぞれの主治医と綿密に連携をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期の方針を話し合い「終末期支援に関するインフォームド・コンセプト」を文書で交わし、看取りの場所、ホームでの希望、宗教などの意向を確認している。現在、6人の利用者が重度化になっており、段階に応じて家族、主治医、関係者と方針を共有して終末期に向けた看取り介護を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	他者の居るところでは特に排泄への声かけに注意し、言葉づかいについても徹底して指導している。前回の外部評価で指摘のあった「コスモス便り」や「面会簿」でのプライバシーに関し、家族にアンケートを実施した結果、特に問題はなかったが今後の取扱いを検討している。個人情報などの文章類は事務所に保管している。	○	面会簿についてはメリットの面もあるが、家族の来訪日は日誌にも記載しているので、プライバシーの面から廃止したい、とのことなので期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事がきちんと摂れる時間帯を決める他は、本人のペースで過ごしている。本人が望まないことを強いないなど、その意思を大切にして対応している。要望が重なった時は事情をきちんと説明し、理解を得て順次対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切り、錦糸卵を焼くなど出来る人は準備に参加し、ホームの畑で採れた野菜類を食卓に載せ楽しむ事もある。食事に集中する、あるいはテレビを見ながら話題を交わすなど、利用者の状態によりユニットでの食事風景も違うが、職員も食事を共にし、食後は下膳、食器拭きなど、利用者も積極的に参加している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後2時～4時頃まで、体調によっては日曜日にも行い、毎日入浴ができる態勢になっている。入浴前には必ず本人の意思を確認している。希望時間や入浴を楽しめるような配慮もして週2回は実施している。時には温泉に行き、楽しむこともある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は野菜切り、食器拭き、袋畳み、雑巾縫い等を役割で行い、昼寝、ホーム内の散策、散歩、ドライブ等、好きなように過ごしている。パブリックホールで午前中はユニット合同の歌会、午後には体操やフーセンバレーなどを楽しみ、当日も賑わっていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季には毎日散歩をしていたが、重度化で寝たきりの利用者が増え、散歩が難しくなっている。元気な人、車いすの人は出かけている。冬季は景色が見渡せる広いパブリックホールで毎日のように運動などを取り入れ楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、パブリックホールへの入口は施錠をしない。外に出た時は職員が同行し安全に配慮しているが、頻度の徘徊で落ち着かない利用者がある場合は、生命の危険に配慮し一時的に鍵を掛けることもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導で年に2回、夜間を想定した通報、初期消火、避難訓練を実施している。災害時には近所の人と自治会長の協力が得られるように協力体制を作り、ホームに備水を常に用意し防災に積極的に取り組んでいる。	○	時期を見て、検討しているスプリンクラーの取り付けにも期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が献立表を作り個人に合わせ、とろみ食や刻み食を提供している。食事量・水分量の1日の摂取量は個人の記録表に載せ、職員間で把握し過不足に対応している。栄養の総カロリーは目安で1600位に決め、健康に必要な食品を入れて充分に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は採光が良くて全体的に明るく、窓が多いので外の景色が十分に楽しめる造りになっている。床はクッション・保温性の床材を使用し安全に配慮されている。スリガラス風で区切られた居間、食堂は広く、廊下からも様子がわかる。利用者は居間やユニット共有のパブリックホールでゆったりと過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には備えつけのベッドに広い押し入れがあり、収納ができるので、ゆったりしたスペースである。仏壇やテレビ、小物などを持ち込んでいるが、利用者の症状から混乱することに配慮し、物をあまり置かない、安全ですっきりした居室づくりを工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。